



平成29年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年9月8日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL http://www.asukanet.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 平成28年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年4月期第1四半期の業績(平成28年5月1日～平成28年7月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年4月期第1四半期	1,230	2.7	135	18.2	135	16.5	91	17.2
28年4月期第1四半期	1,197	2.3	114	△26.7	116	△26.0	78	△21.4
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年4月期第1四半期	5.48		5.45					
28年4月期第1四半期	4.68		4.63					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年4月期第1四半期	4,693	4,112	87.5
28年4月期	4,820	4,190	86.8

(参考) 自己資本 29年4月期第1四半期 4,106百万円 28年4月期 4,183百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
29年4月期	—	—	—	—	—
29年4月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年4月期の業績予想(平成28年5月1日～平成29年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,461	5.6	800	3.5	805	3.7	551	0.7	32.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、業績管理を年次で行っているため、第2四半期累計期間の業績予想は開示しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

29年4月期1Q	17,464,000株	28年4月期	17,464,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

29年4月期1Q	730,141株	28年4月期	730,141株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

29年4月期1Q	16,733,859株	28年4月期1Q	16,706,174株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策などを背景に緩やかな回復基調で推移しておりますが、イギリスのEU離脱問題や円高の進行などによる下振れリスクが懸念されており、先行きは不透明な状況が継続しております。

当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、葬儀演出用の演出ツールや額の売上は堅調に推移したものの、主力である遺影写真加工収入が微増にとどまり、また、ハード機器の入れ替えが想定通り進まなかったため、ハード機器売上が前期実績を下回ってしまいました。

また、費用面におきましては、人件費、広告宣伝費などを適切にコントロールしてまいりました。

以上の結果、売上高は537,559千円(前年同四半期比99.4%)、セグメント利益は155,231千円(前年同四半期比101.4%)となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真家向け市場では、自社営業による契約獲得に加え、ASUKABOOKセミナーの実施や、展示会への出展により拡販を図るとともに、新製品もリリースいたしました。その結果、プロフェッショナル写真家向け売上は順調に推移いたしました。

一般消費者向け市場では、各種キャンペーンの実施や、豊富な台紙などの提供、ユーザーサポートの充実などの施策を実施してまいりましたが、競争環境が厳しく、特に新規顧客の獲得に苦戦し、一般消費者向け売上は想定を下回りました。一方、OEM供給に関しましては、順調に推移いたしました。

利益面につきましては、効率的な生産により粗利率が向上し、販売費についても費用対効果を吟味し、適切に活用したため、セグメント利益は順調に伸長いたしました。

以上の結果、売上高は686,708千円(前年同四半期比106.7%)、セグメント利益は131,725千円(前年同四半期比123.8%)となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレート(人工知能プレート)の量産立ち上げを最重要課題として取り組んでおります。ガラス製プレートにつきましては、依然として十分なコストダウンは図れておりませんが、大型プレートを含め、さらに品質は向上し、十分な在庫を確保できております。

樹脂製プレートにつきましては、新製法とガラス製の生産方式と同様の手法の双方でトライを継続しております。ガラス製の生産方式と同様の手法での試作品は、小型プレートにはなりますが、販売を開始しております。一方、新製法につきましては、最大の課題であります鏡面加工(蒸着)の工程におきまして、未だ技術的な解決をしておりません。解決に向けて、さまざまな手法でトライしているところですが、想定以上の時間を要しているのが現実であり、遅くとも当事業年度中には、新製法か、ガラス製の生産方式と同様の手法かのどちらかに絞り込む方針であります。

マーケティング面におきましては、平成28年6月にデジタルサイネージジャパンに出展するなど、組込系だけでなく、サイネージ分野におきましてもマーケティングを行いました。研究面におきましては、従来より開発に取り組んでおりました再帰反射による視野角拡大型プレートの初期試作をデジタルサイネージジャパンに出展し、さらなる試作を進めてまいりました。

依然として、価格面で十分にマッチしていないことを主要因として、限られた用途での売上や小ロットでの売上に留まっております。価格の低い樹脂製プレートの販売が増加したことや、前期には大口案件としてアミューズメントパークへの納入があったことにより、売上は前期実績を下回ってしまいました。費用面では、展示会出展のための広告宣伝費や試作のための研究開発費が増加いたしました。

以上の結果、売上高は5,955千円(前年同四半期比49.3%)、セグメント損失は36,204千円(前年同四半期は26,130千円の損失)となりました。

以上の結果、売上高は1,230,223千円(前年同四半期比102.7%)となり、利益面につきましては、上記しました各事業の状況、特にパーソナルパブリッシングサービス事業における順調な利益の伸長により、経常利益は135,609千円(前年同四半期比116.5%)、四半期純利益は91,730千円(前年同四半期比117.2%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ127,177千円減少し、4,693,240千円となりました。これは主に、商品及び製品が22,420千円増加した一方で、法人税等や配当の支払いにより現金及び預金が111,508千円、有形固定資産が32,814千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ49,760千円減少し、580,284千円となりました。これは主に、未払法人税等が71,700千円、賞与引当金が65,800千円減少したことによるものであります。

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ77,416千円減少し、4,112,955千円となりました。これは主に、四半期純利益を91,730千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,338千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月10日に発表いたしました平成29年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年4月30日)	当第1四半期会計期間 (平成28年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,918,143	1,806,635
受取手形及び売掛金	610,639	598,685
商品及び製品	123,936	146,357
仕掛品	13,423	15,426
原材料及び貯蔵品	50,720	54,084
その他	90,046	81,329
貸倒引当金	△3,803	△4,579
流動資産合計	2,803,106	2,697,938
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	514,797	508,939
機械及び装置(純額)	552,201	514,513
土地	432,702	432,702
その他(純額)	126,957	137,688
有形固定資産合計	1,626,659	1,593,844
無形固定資産	196,351	209,056
投資その他の資産	194,300	192,400
固定資産合計	2,017,310	1,995,301
資産合計	4,820,417	4,693,240
負債の部		
流動負債		
買掛金	123,714	118,717
未払法人税等	120,200	48,500
賞与引当金	129,700	63,900
その他	249,796	342,532
流動負債合計	623,410	573,649
固定負債		
退職給付引当金	6,634	6,634
固定負債合計	6,634	6,634
負債合計	630,045	580,284
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,400,136	3,324,528
自己株式	△315,115	△315,115
株主資本合計	4,181,905	4,106,297
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,086	278
評価・換算差額等合計	2,086	278
新株予約権	6,380	6,380
純資産合計	4,190,372	4,112,955
負債純資産合計	4,820,417	4,693,240

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年7月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成28年7月31日)
売上高	1,197,499	1,230,223
売上原価	611,192	611,520
売上総利益	586,307	618,703
販売費及び一般管理費	471,952	483,514
営業利益	114,354	135,188
営業外収益		
受取利息	539	272
受取配当金	545	611
受取手数料	239	138
為替差益	660	—
その他	120	35
営業外収益合計	2,104	1,057
営業外費用		
為替差損	—	636
その他	9	—
営業外費用合計	9	636
経常利益	116,449	135,609
特別損失		
固定資産除却損	11	—
特別損失合計	11	—
税引前四半期純利益	116,438	135,609
法人税等	38,190	43,879
四半期純利益	78,247	91,730

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	540,693	643,668	12,082	1,196,443	1,055	—	1,197,499
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	92	—	92	—	△92	—
計	540,693	643,760	12,082	1,196,536	1,055	△92	1,197,499
セグメント利益 又は損失(△)	153,106	106,387	△26,130	233,362	△8,244	△110,763	114,354

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、「ギフトネットコム」サービスであります。

2 セグメント利益の調整額△110,763千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成28年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	537,559	686,708	5,955	1,230,223	—	1,230,223
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	537,559	686,708	5,955	1,230,223	—	1,230,223
セグメント利益 又は損失(△)	155,231	131,725	△36,204	250,751	△115,562	135,188

(注) 1 セグメント利益の調整額△115,562千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。